

令和2年度やまがた緑環境税特集号

# 森林やまがた



県民みんなで支える  
森づくり



上：やまがた緑環境税を活用して整備を行った森林(真室川町)  
左：鶴岡市立西郷小学校ふれあい講座  
右：山形市 第70回山形市植樹祭の様子

目次	やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声…2	各地域における森林整備の取組み ……6
	やまがた緑環境税を活用する事業展開…3	やまがた絆の森づくり推進事業の取組み ……10
	やまがた木育推進事業の取組み ……4	県民参加の森づくりの推進…12
	山形県低コスト再造林技術実証事業の実施状況…5	やまがた緑環境税PR活動の取組…16

県民の皆様の御協力に深く感謝申し上げます

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています

## 森に散りばめられた物語

大江町七軒地区在住 野木 桃子

町土の8割を森林が占める大江町。この町にやってきたのは2015年の初夏のことです。転職を機に大江町の山間地域へ移住した私は、山々に囲まれた初めての生活に戸惑いながらも、自然に寄り添う暮らし方を一から覚えていく感覚にわくわくしていました。薪を暮らしに取り入れたり、四季折々の山の恵みを食したり、長く厳しい冬を乗り切る保存食作りを教わるなど、「森はたからの山」という言葉を体現する毎日でした。ほどなくして、地元のお年寄りから森の暮らしぶりを聞き取りまとめた地域新聞「月刊 あどばい日記」を発行することとなり、森への関心がより一層高まったのです。

山間地域の暮らしを彩るヒント、受け継がれる知識や技術、80年、90年と森で生きてきた人々の人生の物語など、地域に散りばめられた物語を拾い集めるうちに見えてきたのは、森と深くかかわり、森を愛し、共生してきた人々の暮らしでした。かつて、杉の苗木づくりをしていたおじいちゃんは言いました。「戦後この村一帯が裸山になったのが忘れられない。苗木をつくり続けて65年。これからもこの森を守っていきたい」と、その強くたくましいおじいちゃんの姿に、自分たちの森は自分たちの手で守っていかなければいけない、という責任感が芽生えました。

そんな時、「森を守る」ために自分にできることは何だろうという疑問に答えてくれたのが「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動でした。本税は、荒廃が進んでいる森林の整備や、県民参加の森づくり活動のため、私たち県民が毎年納めている税金です。山形の豊かな森林を守り後世に繋げていくために「県民みんなで支える森づくり」という考え方を基盤に、様々な事業が行われていますが、その認知度向上は昨今の課題でもあります。「自分たちの森は自分たちの手で」を実践している素晴らしい取り組みを県民が知らないでいるのは実にもったいないことです。

多岐にわたる取り組みの中でも、その大切さが見直されているのが「木育」です。以前に比べ、人が木や森に親しむ機会が減ったことで生まれたこの取り組みは、全国各地で広がりつつあります。木製品を暮らしに取り入れたり、山菜・きのこを消費したり、森の中で遊んでみたりと、そのアプローチ方法は実に様々。「子供の頃、学校帰りに採って食べた木の実がおいしかった」、「藤の実でチャンバラごっこをしてよく遊んだなあ」と話すのは先に紹介したお年寄りたち。そのお話の数々が創りあげるのはまるで豊かな森の図書館。森と共に生きてきた、先人たちの多様な知識と経験に触れることも、また、山形らしい木育のかたちだと思えます。

木育に共通しているのは、様々な取り組みを通して、自らが素敵だと思う森林との付き合い方を考えられるようになってほしいということ。わたしたち大人ができることは、その機会をつくってあげることだと思っています。やまがた緑環境税がその一翼を担うことを期待するとともに、これらの取り組みが県民にとって親しみのもてるものとなるよう願っています。





R2 やまがた緑環境税活用事業 775,865千円 (うち やまがた緑環境税 701,829千円)

I 環境保全を重視した森林施策の展開【森林環境緊急保全対策事業費】622,501千円(うち やまがた緑環境税 548,465千円)

① 環境保全を重視した森林整備の推進(582,896千円うち 緑環境税 508,860千円)

◇ 荒廃森林緊急整備事業 事業量 1,105ha(森林ノミクス推進課:582,896千円 うち 緑環境税 508,860千円)

■ 人工林整備 事業量 548ha(森林ノミクス推進課:274,468千円 うち 緑環境税 200,432千円)

手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備

やまがた緑環境税による整備 361ha  
国庫補助事業を活用した整備(森林環境保全直接支援事業等) 187ha

○ 針葉樹林維持型

人工林を適正に維持、管理するための間伐や森林作業道の設置等を行う



～多様な樹齢からなる森林が面的に配備され、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～



○ 針広混交林型

広葉樹との混交の促進を図る強度間伐を行う



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



■ 里山林整備 事業量 557ha(森林ノミクス推進課:308,428千円 うち 緑環境税 308,428千円)

病害虫被害で活力が低下した里山林の再生。被害木の伐採や補植等を行う



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



② 森林資源の循環利用の促進(39,605千円)

◇ 森林資源循環利用促進事業

事業量 45,819m<sup>3</sup>(森林ノミクス推進課:25,899千円)  
間伐材等をラミナ(集成材)、合板等用材やチップ、ペレット等の木質バイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。

◇ 広葉樹林健全化促進事業

事業量 800m<sup>3</sup>(森林ノミクス推進課:800千円)  
ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、チップ等への活用併せて、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。

◇ 森林資源再生事業

事業量 71ha(森林ノミクス推進課:12,906千円)  
森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する。



II みどり豊かな森林環境づくりの推進(135,823千円)

① 県民参加の森づくりの推進(125,836千円)

【みどり豊かな森林環境づくり推進事業】(みどり自然課:111,534千円)

地域住民や市町村が行う計画的かつ広がりのある活動や地域と連携して行う森づくり活動等への支援

- 1 豊かな森づくり活動 (地域住民との協働による里山林の保全活動)
- 2 自然環境保全活動 (希少野生生物の生息地の保全活動)
- 3 森や自然とのふれあい活動 (子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習)
- 4 木に親しむ環境づくり (木材の地産地消や木育の取組み)

【やまがた絆の森づくり推進事業】(みどり自然課:950千円)

企業と地域が連携した森林の保全・活用と里山の活性化に向けた取組みの支援

- 1 企業・森林所有者・県による「やまがた絆の森協定」に基づく森づくり活動の推進
- 2 整備森林のCO<sub>2</sub>森林吸収量認証による森づくり活動の見える化

【森づくりサポート体制推進事業】(みどり自然課:13,352千円)

地域住民や市町村、企業による森づくり活動を総合的に支援

② 自然環境保全対策の推進(9,987千円)

【生物多様性戦略推進事業(一部)】

(みどり自然課:2,608千円)  
自然環境の変化等についての総合的なモニタリング調査

【鳥獣管理推進事業(一部)】

(みどり自然課:5,742千円)  
里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

【野生鳥獣捕獲体制強化支援事業(一部)】

(みどり自然課:304千円)  
人と野生鳥獣の共生の担い手育成

【大型野生鳥獣等野生復帰事業(一部)】

(みどり自然課:1,333千円)  
傷病等で救護された野生鳥獣の復帰支援

III 豊かなみどりを守り育む意識の醸成(17,541千円)

① 森林・自然環境学習等の推進(3,244千円)

【やまがた木育推進事業】(みどり自然課:3,244千円)

- 1 やまがた木育推進委員会の開催
- 2 子どもの成長段階に合わせた木育教材の作成等
- 3 「やまがた木育」を指導できる人材を育成する養成講座の開催等

② みどりを育む意識の醸成(12,905千円)

【みどりの循環県民活動推進事業】(みどり自然課:9,634千円)

- 1 森の感謝祭等の開催
- 2 森を守り、育て、暮らしに活かす「緑の循環システム」を体験する各種イベントの開催(森のホームステイ、木工体験会等の開催)
- 3 やまがた緑環境税の普及啓発  
PR/パネル展の開催や広報誌「もりしあ」の発行、各種情報発信サービスの活用等による普及啓発

【やまがた山水百景魅力アップ事業(一部)】(みどり自然課:931千円)

やまがた百名山探訪マップでのやまがた緑環境税PR

【総合支庁実施事業】(総合支庁:1,542千円)

- ◇ 村山総合支庁
  - ・むらやま版・木のある生活推進事業(森林整備課)
- ◇ 最上総合支庁
  - ・遊学の森づくり推進事業(森林整備課)
- ◇ 置賜総合支庁
  - ・置賜みんな一緒に森林活動ネットワーク事業(地域保健福祉課)
  - ・おきたま源流の森づくり活動推進事業(森林整備課)
- ◇ 庄内総合支庁
  - ・出羽庄内公益の森づくり事業(森林整備課)

【やまがた緑環境税広報発信事業】(税政課:798千円)

やまがた緑環境税の周知、広報

③ やまがた緑環境税の評価・検証等(1,392千円)

【やまがた森林ノミクス県会議事(一部)】

(森林ノミクス推進課:148千円)

やまがた緑環境税の活用に係る意見交換、連携促進、情報共有

【やまがた緑環境税評価・検証委員会事業】

(みどり自然課:1,244千円)

やまがた緑環境税活用事業の評価・検証等



木育人材養成講座

# 「やまがた木育」推進事業の取組み

(みどり自然課)

## ◆はじめに

県では、「やまがた木育」推進方針を平成30年3月に策定し、この方針では、県民が森や自然の大切さを学び、森や木の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、暮らしの中に木を活かしていくことを理解し行動を起こすことができる人づくりを目指しています。

令和2年度は、「やまがた木育」の推進を図るため、指導者を養成する講座を二種類開催したのでご紹介します。一つは、幼稚園や放課後児童クラブなどで子どもに関わる方を対象としたスタートアップ講座、もう一つは、森づくり活動団体や県民の森の案内人などを対象としたスキルアップ講座です。

## ◆やまがた木育人材養成講座【スタートアップ講座】

- 1 期 日 7月22日(水)、7月30日(木)
- 2 場 所 庄内総合支庁(庄内会場)  
村山総合支庁(村山会場)
- 3 参加者 幼児施設の教職員等 計39名
- 4 内 容 ①座学(「やまがた木育」について、山形県の森林について、木材の利用について)  
②木育プログラム実習(木製スプーンづくり)

座学では、参加者が「やまがた木育」を適切に指導する上で必要な森や木の知識を身につける学習をしました。県職員が講師となり、山形県の森林文化や森林の有する多面的機能、木材に関する素材の特性やそれらを活かした利用例等について解説しました。

実習では、木製スプーンづくりを行い、参加者に製作等を実際に体験してもらうことで、指導するポイントについて理解を深めてもらうことができました。



座学の様子

## ◆やまがた木育人材養成講座【スキルアップ講座】

- 1 期 日 9月12日(土)、9月13日(日)
- 2 場 所 遊学の森(最上会場)、県民の森(村山会場)
- 3 参加者 各県民の森 森の案内人等 計19名
- 4 内 容 ①座学(「やまがた木育」について、やまがた木育～創ることの可能性～)  
②実習(創る～木と体(人)と道具に向き合うワークショップ)

講師は、木育の先進地である岐阜県の県立森林文化アカデミーで木育を指導していた松井勅尚<sup>ときなり</sup>先生です。座学では、「木育とは、木(森)と人の命を大切にすることを育むこと」といった解説や、岐阜県での活動事例の紹介がありました。

実習では、子どもでも上手に切れるノコギリの使い方を、指導者としてどう教えるかという視点から、姿勢や持ち方など細かいポイントまで丁寧に指導していただき、内容の濃い講座となりました。



ノコギリの使い方を学ぶ

## ◆おわりに

今後も「やまがた木育」に対する県民の理解を深めていくために、山形らしい木育を展開できる人材養成を一層進め、多くの方々から森や木に「触れる」「創る」「知る」という3つの活動に参加していただけるよう、「やまがた木育」に取り組んでまいります。